

平成28年度の基本方針(事業計画)と自己点検・自己評価と外部評価について

重点目標	関連する評価指標		平成28年度目標値	平成28年度実績値	達成率	自己点検・自己評価	外部評価
	基本的運営方針	評価項目					
<p>1 交流事業・イベントにおける連携先の拡大</p> <p>(1)既存のイベントと連動した資料サービスに取り組み、図書館資料の利用者を新たに開拓する。</p> <p>(2)交流エリアの利用団体に呼びかけ、図書館サービスとの連携を拡大する。</p> <p>(3)県庁等の行政機関の施策について情報を収集し、連携の可能性を検討する。</p>		(1)	933,000人	908,706人	97.4%	<p>・入館者数の目標値を約24,000人(2.6%)下回ったものの、91万人弱と高水準を維持している。引き続き幅広い県民活動の場として多くの入館者に利用されるよう利便性を高めていく必要がある。</p> <p>・主催・共催等の企画事業への参加について積極的に取り組み、広く広報した結果、参加者数の目標値を上回ることができた。また、交流エリア全体の利用者数や稼働率も目標値を上回り、利活用が進められていることを示している。</p> <p>・図書館資料の個人貸出数は40万点を下回り目標値に達しなかった。図書館全体の利用は拡大しており、各種の事業と連動した図書館資料の活用促進を図ることが求められる。</p> <p>・メディア掲載等の件数も増加しており、認知度も上がっていると考えられるが、一方で図書館職員が外部で講師として活動した件数は減少しており、図書館の多様な機能についてより積極的な働きかけが必要となっている。</p>	<p>・各項目で高水準の実績を上げており、特に交流エリアは利用数も稼働率も伸びている。全体としては多くの利用者に活用されているが、入館者、貸出数等の基本的項目で前年割れになっていることは、真剣に受け止めるべき懸念材料である。閲覧エリアの利用が減少傾向にあると判断でき、交流エリアの各種の活動と、閲覧エリアの利用を連動させるよう、さらに努力が必要といえる。また、外部の各種機関や、他の県立施設との連携、指定管理者のノウハウの活用等もまだ十分とはいえず、取り組みの強化を期待する。</p>
		(3)	415,000点	393,215点	94.8%		
		(5)	905,000点	905,982点	100.1%		
		(6)	1,450回	1,386回	95.6%		
		(7)	8,300人	10,327人	124.4%		
		(9)	290,000件	266,444件	91.9%		
		(10)	350件	393件	112.3%		
		(14)	60件	83件	138.3%		
		(16)	20人	18人	90.0%		
		(17)	1,100人	1,183人	107.5%		
		(19)	118,000人	124,698人	105.7%		
		(20)	70.0%	71.0%	101.4%		
	(21)	8,300人	10,327人	124.4%			
	(22)	3,300人	2,976人	90.2%			
<p>2 地域の情報拠点としての情報資源整備</p> <p>(1)課題解決サービスや直接的な要望に対応した選書と、山梨関係資料の収集など基本的蔵書の充実を均衡させた蔵書構築を進め、図書館機能の高度化に対応する。</p> <p>(2)デジタルアーカイブ事業を計画的かつ効率的に推進し、適切な広報等によりデジタル資料の活用を促進する。</p>		(3)	415,000点	393,215点	94.8%	<p>・前年と同様の購入予算額を確保し目標とする所蔵資料数には達したが、都道府県立図書館の中で比較すると最下位に近い状況である。図書館運営の基礎でもある多様で質の高い蔵書構築を進める方策をさらに検討していかなければならない。</p> <p>・県立図書館としての基本的コレクションである地域資料については、積極的に寄贈資料の受入処理を進め目標値を大きく上回る実績を上げた。また、確実な収集により地域資料所蔵数でも目標値を達成した。</p> <p>・デジタルアーカイブのコンテンツは、計画通りに作成することができ、目標水準を上回る成果を上げた。しかしながら、ホームページ(トップページ)や「発見!やまなしナビ」へのアクセス件数は前の年度の実績を若干下回った。これらについては構成の見直しやコンテンツの更新などを含め全面的な改修を予定している。</p>	<p>・地域資料の受入で高い実績を上げたことは評価でき、継続した取り組みを期待する。資料購入費を確保し着実に蔵書を拡充しているが、他県と比較し低いレベルの蔵書規模であるので、さらに必要な資料の収集に努めてほしい。単に数を増やすのではなく、積極的に蔵書の紹介をおこなうなどの働きかけを行い、ニーズの的確な把握に努めることも重要である。</p> <p>・ホームページの内容を含むデジタルコンテンツには、より使いやすい工夫が必要である。魅力的なコンテンツの蓄積を進め、見やすく使いやすいホームページ作りに努めてほしい。デジタルアーカイブの充実では、民間資料も視野に入れた地域の記録を残す役割を持つてすすめてほしい。</p>
		(4)	5,200点	5,359点	103.1%		
		(5)	905,000点	905,982点	100.1%		
		(8)	700冊	1,225冊	175.0%		
		(9)	290,000件	266,444件	91.9%		
		(10)	350件	393件	112.3%		
		(15)	550件	482件	87.6%		
		(18)	3,000冊	2,722冊	90.7%		
		(23)	81,400冊	81,614冊	100.3%		
		(24)	2,600件	2,494件	95.9%		
	(25)	4,200枚	4,955枚	118.0%			
<p>3 レファレンスサービスの周知とサービス対応能力の向上</p> <p>(1)レファレンスサービスの成果をツール化しサービスに活用するとともに、レファレンスサービスの周知を図り利用を促進する。</p> <p>(2)課題別、対象別のサービスを充実させるため、専門分野に対する職員の対応能力向上を図る。</p>		(1)	933,000人	908,706人	97.4%	<p>・図書館資料の館外への貸出数は減少傾向にある。各種の窓口サービスの充実を図り、関連イベントやテーマ展示なども連動した図書館資料の利用を進めていく必要がある。特に電子書籍の利用は低調であり、コンテンツの拡充や利用に対する普及啓発活動などによる利用拡大を進めていくべきである。</p> <p>・レファレンスデータの入力、パスファインダー、ブックリストの作成に計画的に取り組み、レファレンスツールの作成については目標値を上回る実績をあげた。レファレンスサービスの利用件数も高く、サービスを利用した結果の満足度も高いが、レファレンスサービスのサービスとしての認知度は依然として低い。より効果的なサービス提供のためにもこうしたサービスの周知に積極的に取り組む必要がある。</p> <p>・レファレンスサービスを含む職員のサービス対応に対する満足度は概ね高い水準にあるが、必ずしも来館目的を達成している利用者ばかりではない。さらに質の高いサービスを目指し職員のスキルアップに努めていくことが求められる。</p>	<p>・レファレンスサービスへの評価は高く、よく活用されているが、認知度は依然として低いため周知のための努力が必要である。また、簡易な問い合わせを除いた相談件数の抽出と内容の分析によって、より効果的な対応の検討を進めてほしい。</p> <p>・対象別に工夫したサービスや、他の施設等と連携したサービス等により、さらに幅広い層に図書館サービスの潜在的な利用者を掘り起こすアプローチも必要である。</p> <p>・電子書籍の利用が低迷しているが、様々な利点を持った媒体でもあることも考慮し、サービスの再検討が必要と思われる。</p> <p>・全体として様々な事業をおこなっているが、事業内容やサービス内容があまり知られておらず残念である。さらに事業内容について積極的にアピールし、知らせる努力が求められている。</p>
		(2)	11,000人	9,767人	88.8%		
		(3)	415,000点	393,215点	94.8%		
		(4)	5,200点	5,359点	103.1%		
		(9)	290,000件	266,444件	91.9%		
		(10)	350件	393件	112.3%		
		(11)	2,000人	2,015人	100.8%		
		(12)	20日	25日	125.0%		
		(13)	59,000件	63,906件	108.3%		
		(14)	60件	83件	138.3%		
		(15)	550件	482件	87.6%		
		(18)	3,000冊	2,722冊	90.7%		
	(21)	8,300人	10,327人	124.4%			
	(24)	2,600件	2,494件	95.9%			